

# 伊丹福音ルーテル教会 枝の主日礼拝のしおり

## 2022年4月10日

### 前奏

#### **招きのことば：詩編 118 編 1-2,21-29 節**

恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。イスラエルは言え。慈しみはとこしえに。 | わたしはあなたに感謝をささげる あなたは答え、救いを与えてくださった。  
家を建てる者の退けた石が隅(すみ)の親石(おやいし)となった。 / これは主の御業(みわざ)、わたしたちの目には驚くべきこと。 / 今日こそ主の御業の日。今日を喜び祝い、喜び躍ろう。 / どうか主よ、わたしたちに救いを。どうか主よ、わたしたちに栄えを。 / 祝福あれ、主の御名によって来る人に。わたしたちは主の家からあなたたちを祝福する。 / 主こそ神、わたしたちに光をお与えになる方。祭壇の角のところまで 祭りのいけにえを綱でひいて行け。 / あなたはわたしの神、あなたに感謝をささげる。わたしの神よ、あなたをあげめる。 / 恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

#### **罪の悔い改めと赦しのことば**

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。 (短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### **使徒信条**

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり、生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

### 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様は私たちのために十字架にかかってくださいました。私たちに罪の赦しをお与えくださいます。イエス様は三日目に死人の中からよみがえってくださいました。私たちを罪と悪魔と死の力から解き放って、神の子として生きるようにはくださいました。今週私たちはイエス様のエルサレムでの最後の一週間を覚えます。矛盾と不条理に満ちた世にあって、人々と自らの罪の力に押しつぶされている私たちのところに今日も来てくださって、ここで私たちを赦し、そして誰も奪うことができない新しい命をお与えくださいます。心から感謝をいたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、緊張感を保たなければなりません。その中でも 御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

### 使徒書朗読：フィリピ 2章 5-11 節

それで、互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

### 福音書朗読：ルカによる福音書 19章 28-40 節

イエスはこのように話してから、先に立って進み、エルサレムに上って行かれた。そして、「オリーブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、引いて来なさい。もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」使いに出された者たちが出かけると、言われたとおりであった。ろばの子をほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。二人は、「主がお入り用なのです」と言った。そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。イエスが進んで行かれると、人々は自分の服を道に敷いた。イエスがオリーブ山の

下り坂にさしかかられたとき、弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。イエスはお答えになった。「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」

### **讚美歌 534 番**

- 1 ほむべきかな 主のみ恵み 今日(きょう)まで旅路を 守りたまえり  
※ よろずの民よ たたえまつれ 「あがないぬしに み栄えあれ」と
- 2 ほむべきかな 御名によりて 受くれば 物みな よからざるなし ※
- 3 ほむべきかな 主の御名こそ いまわの時にも 慰めとなれ ※ **アーメン**

### **説教：「イエスが進んでいかれる」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はついに十字架につけられるために、自らエルサレムにのぼって来られました。ろばの子にのってエルサレムに入っていられました。なぜろばの子なのでしょう。とにかくその日から想像を絶する一週間が始まります。人々はイエス様を神様に立てられたイスラエルを救う立派な王様として迎えました。そして木曜日の夜にはイエス様を捕えて不当な裁判にかけ、金曜日に十字架につけました。イエス様のことを、自分を神様と同じ権威を持つ救い主だといって人々を惑わす、期待外れの偽り者として捕らえました。そして極限まで苦しめ、さらに十字架につけて殺してしまいました。

舞台となったエルサレムは城壁に囲まれた山の上の町です。時あたかも過ぎ越しの祭りという一年に一度、民がかつてエジプトの奴隷状態からモーセによって救い出されたことを覚えて祝うお祭りのときでした。イエス様は過ぎ越しの祭りのために全国から来ていた人々に迎えられました。

イエス様はこの町に入るときに王様として入城されました。人々は手に手に棕櫚の葉を持ち、喜んで自分の上着を道に敷き、歓声を上げてイエス様を迎えました。お弟子の群れはこれまで見てきたイエス様のみわざの数々を思い起こしながら覚えていた旧約聖書の詩編118編の一節をもって口々にイエス様を賛美をしました。今日はそのエルサレム入城を覚える棕櫚の枝の主日です。

聖書は不思議にもイエス様がエルサレムに王様として凱旋していかれるときにろばの子に乗って入られたと記しています。なぜでしょう。王様だと普通は、筋肉質でたてがみの凛々しい堂々

とした軍馬に乗って、鎧兜で身を包み、槍を手に持って入ってくるでしょう。なぜか、日常生活で人々のために荷物を運ぶろばの背中に乗って、それもまだ誰もつたことのない少し頼りない子ろばに乗られました。そして、弟子たちがその子ろばをイエス様のところに連れてきたいきさつも書かれています。

第一に、イエス様がろばの子にのってエルサレムに入ってこられたのは旧約聖書に預言されている民の王様の姿だったからです。旧約聖書ゼカリヤ書9章9節で「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者。高ぶることなく、ろばに乗って来る。雌ろばの子であるろばに乗って。」と記されています。

ろばの子にのって入って来られるこの王様は、戦いをやめさせ、間違った指導者から救い出して、民に平和をもたらす王です。人々をあざむいて幸せを奪い、神様の祝福と喜びから遠ざけて自分中心でわがままに歩むように誘惑する悪魔の力を滅ぼして、私たちに平和を与えてくださる王です。

私たちに必要なのはこのような王様ではないでしょうか。地の上は相変わらず、争いや戦いで満ちています。もちろん、ひとつひとつの紛争をやめさせて平和を与えることも大切です。しかしイエス様は、戦いの原因である人の罪と、その結果である死と、いつも人を操ろうとする悪魔の力に勝利して下さる、まことの王様なのです。

私たちに自分を守るために自ら戦いを挑む思いがあります。敵が立ち上がれないまでに力を見せつけようとする支配欲があります。人々の勧めを聞き入れないかたくなな心です。私たちみんなが罪深い者です。そのために自分も幸せを得ることができず、人をも不幸せのどん底に陥れています。その上、私たちに自分でそのような罪深い生涯を変える力はありません。イエス様は私たちを作り変えて、自分の罪を悔い改め、赦されて正義と愛の神様を信じ、平和を作り出すものに変えてくださいます。イエス様はそのようなまことの王様として、約束されたろばの子にのってこられました。

第二に、イエス様がろばの子にのって入城されたのは、イエス様が私たちにお仕えくださる王様だからです。軍馬にのって、自分だけは傷つかないで、人々には傲慢に指示を与えて威張り散らすような、偉そうな王様ではありません。むしろその反対で、イエス様は自ら傷つき、人々の暮らしに寄り添い、謙遜に神様に従う王様です。

過越の祭りでは、かつてイスラエルの民がエジプトで奴隷になっていたときのエピソードが覚えられます。モーセはファラオという王様にイスラエルの人々を奴隷の状態から解放して自由にしてほしいと何度も願いましたが聞き入れられませんでした。神様はエジプトにたくさんの災いをもたらされました。最期に神様の裁きがエジプトの家に訪れ、初子が死んでしまうという災いがありました。そのとき神様は、裁きは小羊の血を玄関の鴨居に塗っている家は通り過

ざる、過ぎ越す、という約束をなさいました。信じてそのようにした家の子どもたちは助かりました。このことが決め手になってファラオはイスラエルの民を解放しました。そのために解放された民は、毎年過ぎ越しの祭りで過ぎ越しの小羊を覚えて祝いました。

イエス様はエルサレムに入られるとき、過ぎ越しの祭りを祝うためというよりも、自らがこの過ぎ越しの小羊になって、人の罪のために死んで血を流すためにほふられる、つまり、十字架でその命をおささげになるために来られたのです。軍隊の力や交渉の手腕によって政治的な独立を得ても、また、知恵や行動力で貧困や病気からの解放を得ても、そのあと状況が変わると民は捕えられてしまいます。ですからイエス様は、根底には罪からの自由が必要であることをご存知でした。イエス様は人々にパンと魚を与え、病をいやされました。強大なローマ帝国を覆す力もお持ちでした。しかし、人を威圧し支配する、一時的な王様ではなく、人類の罪の赦しのために私たちにお仕えくださって、そのいのちをお与えくださるために、ろばの子にのって来てくださったのです。信じる私たちの罪は赦され、新しいいのちを与えられて、イエス様によって自由な者とされました。

第三に、イエス様がろばの子にのってエルサレムに入城されたのは、私たちがイエス様を救い主として受け入れ信じるためです。人々はイエス様を賛美をして迎えました。人々は過越の食事の歌だった詩編118編25節以下から「今日こそ主の御業の日。今日を喜び祝い、喜び躍ろう。どうか主よ、わたしたちに救いを。どうか主よ、わたしたちに栄えを。祝福あれ、主の御名によって来る人に。わたしたちは主の家からあなたたちを祝福する」と歌いました。

イエス様を喜び迎えた弟子たちと民はイエス様を裏切りました。弟子たちは木曜日の夜、捕えられたイエス様を見捨てて逃げました。金曜日に民は、イエス様を十字架につけよ、と叫びました。彼らは自分たちに自由を与える王様を待っていましたが、イエス様が自分たちの考えた救い主ではなかつと気づいたとき、自分の都合のあわないイエス様を排斥したのです。

私たちが苦しいとき、また失敗したりすると、神様、助けてください、と祈ります。聞かれないように思うと神様を蹴り飛ばして、助けてくれそうな別のものに希望を託してすがろうとするのではないのでしょうか。けれども、イエス様はそのような私たちのどうしようもない不真実な思いもご存じで、私たちに本当に必要な罪の赦しと新しい命を与えるために、進んで苦しみ、十字架の道へと歩んでくださいました。

そうでしたら私たちはなおさらのことイエス様に感謝し、信頼しましょう。全身で賛美を表しましょう。「われらをお救いください」という言葉が「ホサナ」となり、人々は「ホサナ、主の御名によってきたる者に、祝福あれ」と歌ってイエス様を迎えました。古代から教会でも「いと高きところに、ホサナ。主の御名によって来るお方に祝福あれ」と賛美して、イエス様を王として礼拝にお迎えしてきました。新約聖書の最後の書であるヨハネの黙示録7章9節で、天国の礼拝の姿が描かれています。イエス様の赦しを得た白い衣を着て、信仰の告白である棕櫚

の枝を手にもって、御座と小羊との前に立ってイエス様を賛美する人々です。私たちも毎週の礼拝でイエス様を王として迎えます。

弟子たちが遣わされて子ろばを連れてきました。子ろばの持ち主はなぜ連れていくのですか、と弟子に尋ねたらイエス様に前もって言われていたように「主がお入り用なのです」と答えました。すると持ち主は子ろばを弟子たちに委ねました。子ろばのほんとうの主人、主は、イエス様だからです。

私たちはみな神様によってつくられ、祝福されて今おかれているところでの日々を託されています。しかし同時に私たちはみな、自分中心でわがままに、自分の人生の責任をとり、できるだけ自分の感じる幸せを実現して生きていきたいと願いつつ、思い通りにならないであきらめたり、悩んだりします。そして神様に自分を支援して下さるように祈ります。しかし聖書は教えています。あなたはそもそも神様のものです。神様に生かされ守られてきました。あなたが遠く離れて御心を知らずにきたとしても、イエス様があなたのために血を流して罪を赦してあなたを罪のもとから買い戻してくださいました。あなたの本来の居場所である神様のもとの、神様を喜び、人々の幸せをともにつくっていくという与えられた使命を喜んで果たすように導いてくださいました。あなたの主はイエス様です。主がお入り用のところで、いただいた使命に生きる時、あなたは最も輝くのです。

イエス様をほめたたえる賛美を誰も止めることはできません。人々が「ホサナ！ ホサナ！」と叫ぶのを見て、ファリサイ人たちはたいへん苦々しく思い、イエス様に「あなたの弟子たちを叱ってください」と頼みました。イエス様は「もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」と言われました。イエス様をほめたたえる賛美は誰も押しとどめることはできません。わたしたちも、ろばの子にのって入城されたイエス様の十字架をしのび、復活の救いを祝う、賛美をもって歩んでまいりましょう。

「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」ルカによる福音書 19章 38節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

### 讚美歌 511番 献金 献金感謝の祈り

1 み赦しあらずば 滅ぶべきこの身 わが主よ、あわれみ 救いたまえ

※ イエスキみよ、このままに 我をこのままに、救いたまえ

2 罪のみ つもりて いさおは なけれど なお主の血により 救いたまえ ※

3 み恵み 受くべき 身にし あらねども ただ御名のために 救いたまえ ※

4 **みわざを世になす ちからある者と わが身も心も ならせたまえ ※ アーメン**

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

**頌栄：讚美歌 543 番**

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ御栄えよ **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**